

■計画策定までの流れ

地域の強み

■地域の強みを出し合いました。

- ・市中心市街地への移動が便利
- ・県庁などの行政機関へのアクセスが便利
- ・八幡山公園にはタワーがそびえ、春の桜まつりには多くの住民が集う憩いの場となっている
- ・地域団体同士の連携が強い
- ・二荒山神社の行事を中心に伝統的な祭りが盛んである
- ・自然に囲まれ、伝統ある大谷石の蔵とマンションが並び、高齢者と若者が共に暮らしている

課題の抽出

■地域で気になること（課題）について話し合いました。

- 【移動が不便】
コンビニ、スーパー、薬局、診療所、文化施設は地区の南側に集中しており、地区北側の高齢者などは移動手段に困っている。バスの活用が少ない
- 【参加率が低い】
通いの場や健康教室への参加率が低い
- 【居場所が少ない】
ちょっといける場所、集まる場所、どの世代も集まれるみんなの居場所が少ない
- 【防災の意識が低い】
災害が少なく、防災に関する意識が低い
- 【地域のつながりの希薄化】
隣近所で相談や助け合いができる関係が希薄化している

目指す地域の姿

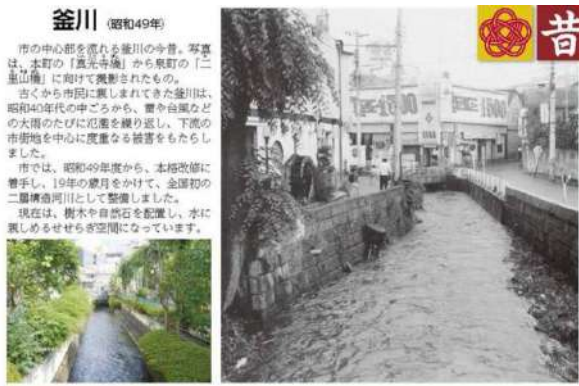
- 目指したい地域の姿の意見を出し合った中から、計画のタイトルを決めました。
つなぐ、つながる明日への希望 未来への安心

実現のために取り組むこと

- 4つの基本目標に課題を分類し、その解決と、目指す地区の姿を実現するための具体的な実行計画を導き出しました。また、地域の誰が中心に、いつまでに取り組んでいくかも決めました。

「将来きっと、自分もお世話になる」 だから、お互いさま。

■昭和地区今昔物語



古くから市民に親しまれてきた釜川は、昭和40年代の中ごろから、雷や台風などの大雨のたびに氾濫を繰り返し、下流の市街地を中心に度重なる被害をもたらしました。

市では、昭和49年度から、本格改修に着手し、19年の歳月をかけて、全国初の二層構造河川として整備しました。

現在は、樹木や自然石を配置し、水に親しめるせせらぎ空間になっています。



発行年月日：令和8年3月

編集：昭和地区社会福祉協議会 地区第二層協議体

連絡先：宇都宮市社会福祉協議会（☎028-636-1215）

昭和地区 福祉のまちづくり計画

＜＜令和8年度～令和9年度（2年間）＞＞

福祉のまちづくり計画って？

地区の福祉課題を把握し、その解決のために今後どのような活動に取り組んでいくのか、また、将来の姿を見据えて「福祉のまちづくり」をどのようにすれば実現できるのかを、地区のみなさんと話し合い、短期的（1～2年程度）にまとめた計画です。
また、令和9年度市計画等の活動見直しに合わせて再度計画更新とします。

■昭和地区の現状

※1：令和4年10月1日現在
※2：令和4年12月末日現在

人口		昭和地区	宇都宮市
	年少人口	805人※1 (11.3%)	★64,953人※2 (12.5%)
	生産年齢人口	4,158人※1 (58.7%)	★318,110人※2 (61.5%)
	高齢者人口 (高齢化率)	2,124人※1 (30.0%)	★134,434人※2 (26.0%)
	昭和地区合計	7,087人※1	★517,497人※2
自治会数		☆17	☆782
自治会加入世帯数		☆2,086	☆126,908
全世帯数		3,594※1	241,965※1

★宇都宮市オープンデータカタログ「年齢3区分別人口と年齢構造指数の推移」より
☆宇都宮市自治会連合会データより（令和7年7月現在）

■昭和地区の特徴

【歴史】

宇都宮市の中心部に位置し、歴史的な建物や地域活動が盛んなエリア。

特に、大谷石を使った蔵が多く残っており、観光資源としても注目されている。

【地域の質的状況】

- ・昭和地区は、北は戸祭台、南は大通り付近と南北に長く、県庁、文化施設、報道機関（テレビ局や新聞社など）等の多様な施設集まる地域や住宅地、自然豊かな地域が混在している。
- ・徒歩や自転車圏内にスーパーや飲食店、医療機関が複数存在し、生活の利便性が高い。北部地域は市内巡回バスが運行しており交通の利便性を高めている。

【地域資源・生活環境】

- ・高齢化率は、市全体に比べてやや高い。
- ・産業別就業人口構成比は、市全体に比べて「第3次産業」の占める割合が高い。
- ・地域活動は、昭和まつりや昭和フェスタのほか、防犯パトロールや環境点検が行われている。

【現状】

老齢化率が65歳以上では30.0%※1と市平均より高く、少子高齢化社会の地域となっている。

つなぐ、つながる明日への希望 未来への安心

地区の皆さんから出された地区の課題を整理して、目指す地区の姿を考え、それを実現するために必要な取り組みと、地区の強みを生かした、具体的な実行計画を立てました。

基本目標	抽出された課題	取組	具体的な取組（内容）	活動主体	2026	2027	2028
1. 福祉の ところを はぐくむ 人づくり	【参加率が低い】 通いの場や健康教室への参加率が低い	健康で元気に 外出できる体力 づくり	①太極拳などの健康教室への参加促進 ②ウォークラリー大会への参加促進 ③健康づくり推進員養成講座への参加促進 ④ふれあい・いきいきサロンへの参加促進 ⑤担い手の確保に向けて、若い高齢者の地域活動への参加を支援する	地区連合自治会 地区民生委員児童委員協議会 地区福祉協力員連絡会 地区まちづくり協議会 地域包括支援センター 地区社会福祉協議会 地区スポーツ協会	実施		
2. 共に 支え合う 地域づくり	【地域のつながりの希薄化】 隣近所で相談や助け合いができる関係が希薄化している 【居場所が少ない】 ちょっといける場所、集まる場所、どの世代も集まれるみんなの居場所が少ない	近所に手助けを 頼めるまちづく り・どの世代も 集まれる地域の 居場所づくり	①高齢者が中心の通いの場などに、若い世代の参加者を増やし、世代間交流の場づくり ②高齢者、障がい者、子育て世代など、多世代が集う居場所作りの検討 ③子ども若者夏休み学習支援の居場所づくり ④通いの場での地域包括支援センターによるこまりごと出張相談	地区老人クラブ連絡協議会 地区こども会育成会 地区連合自治会 地区民生委員児童委員協議会 地区福祉協力員連絡会 地区まちづくり協議会 地域包括支援センター 地区社会福祉協議会	実施		
3. 安心して 暮らせる 福祉の 基盤づくり	【移動が不便】 コンビニ、スーパー、薬局、診療所、文化施設は地区の南側に集中しており、地区北側の高齢者などは移動手段に困っている バスの活用が少ない	誰でも移動・ 買い物ができる まちづくり	①地域内交通計画<デンマンドタクシー>等の誰もが利用しやすい交通手段の提案 ②買い物品の有料配送（スーパー、ドラッグストア）等の情報提供 ③移動販売での買い物支援	地区こども会育成会 地区連合自治会 地区民生委員児童委員協議会 地区福祉協力員連絡会 地区まちづくり協議会 地域包括支援センター 地区社会福祉協議会	実施		
4. 安全な地域 づくり （地区独自 目標）	【防災の意識が低い】 災害が少なく、防災に関する意識が低い	災害に強いまち づくり・誰でも 得られる情報 発信	①単位自治会別「防災タイムライン」を作成・配布への協力 ②防災訓練(親子参加でのタイムライン作成)への参加促進 ③地区連合自治会ホームページやLINEを活用した情報発信の強化	地区こども会育成会 地区連合自治会 地区民生委員児童委員協議会 地区福祉協力員連絡会 地区まちづくり協議会 地区自主防災会 地域包括支援センター 地区社会福祉協議会	実施		

支えあうと
起こること

足腰の調子がすぐれない一人暮らしのAさん

支えがあると
Aさんの近所で居場所づくりが始まり、顔を合わせるうちに近所の友人ができた。

本人の気持ち
おしゃべりの時間が楽しいと歩いて行ける居場所があり、一人ではないと感じられ、安心できる。

支え手の気持ち
居場所を立ち上げ、自分も地域に住む人を知るきっかけになった。

会話の苦手なCさん

支えがあると
近所の人が地域の道路清掃活動に誘ってくれた。

本人の気持ち
人と話すのは得意でなかったが、汗を流す作業にやりがいを感じ、続けられた。近所の人も仲良くなり、外に出る楽しみができた。

支え手の気持ち
自分も地域に知り合いが少ないので、一緒に活動する仲間が増えて嬉しい。

家族の介護に悩むDさん

支えがあると
近所の知人が父親の外出に寄り添ってくれ、またDさんの話も聞いてくれた。

本人の気持ち
父親も気晴らしができ心が安定し、Dさんもはげ口ができたことで、父親に対して優しくなった。

支え手の気持ち
自分の介護経験から、介護する人の気持ちがわかる。空いた時間で少しでも力になりたいと思った。